



# Weekly Market Report

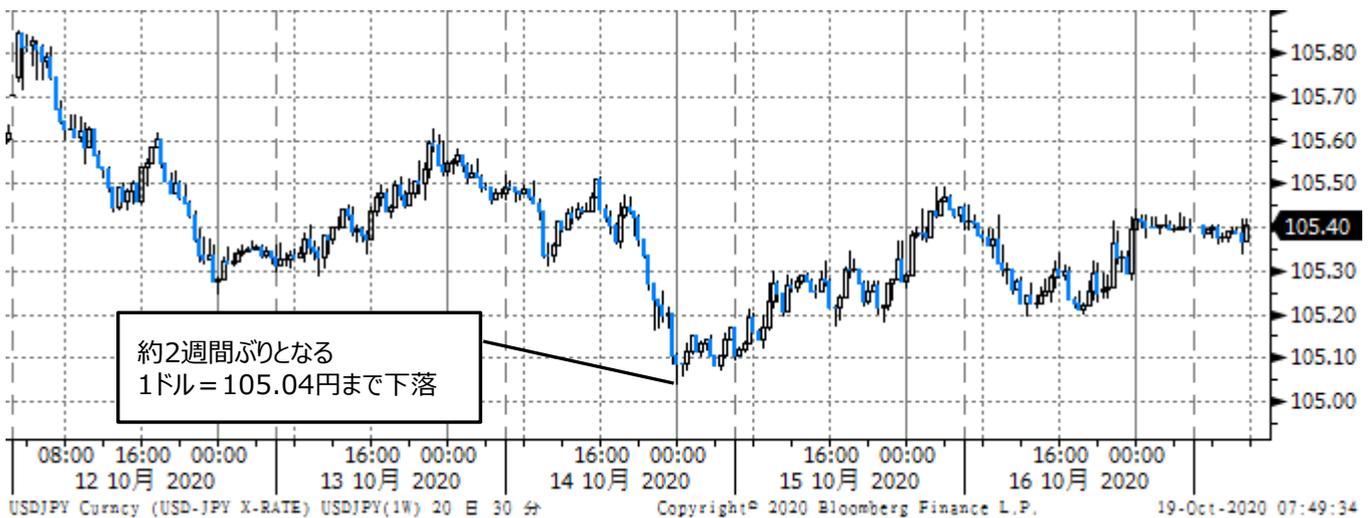
Oct 19, 2020

FX, JPY Interest Rate, Topics

## 1. 為替相場概況

米大統領選テレビ討論会が注目となるが、引続き小幅での推移を予想。

### USD/JPY (1週間の値動き)



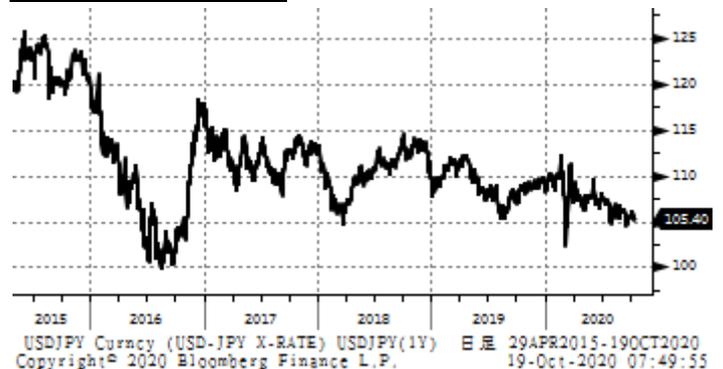
### コメント

先週のドル円相場は105円程度から105円台後半の狭いレンジで推移。週前半は、米大統領選挙を控えた先行き不透明感や米製薬大手ジョンソン・エンド・ジョンソンが新型コロナウイルスワクチンの全ての治験を停止したとの報道、米国の追加経済対策の早期合意が困難との見方が広がったことなどを受け、市場がリスク回避の動きをみせ、約2週間ぶりとなる105.04円まで下落。その後はトランプ米大統領が1.8兆ドルの追加経済対策案を支持し、週の半ばにかけて米国株が下げ幅を縮小したことや小売売上高などの米国経済指標が好調であったことを受けて、ドル円は105円半ばまで持ち直して越週となった。今週は22日に行われるトランプ氏・バイデン氏のテレビ討論会や米国の住宅関連の指標が注目となる。テレビ討論会でもバイデン氏優位の結果が保たればトリプルブルーが意識され、ややドル高になることも考えられるが、米大統領選を2週間後に控えて全体的には動意が薄い展開が予想される。  
(市場営業部/塚田)

### 今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
10/19(月)	(中国) 3Q GDP (前年比)	5.5%
10/19(月)	(中国) 小売売上高 (前年比)	1.6%
10/20(火)	(米国) 住宅着工件数	145.5万件
10/22(木)	(米国) 中古住宅販売件数	630万件
10/23(金)	(米国) マーケット製造業PMI	53.5

### USD/JPY (5年間)



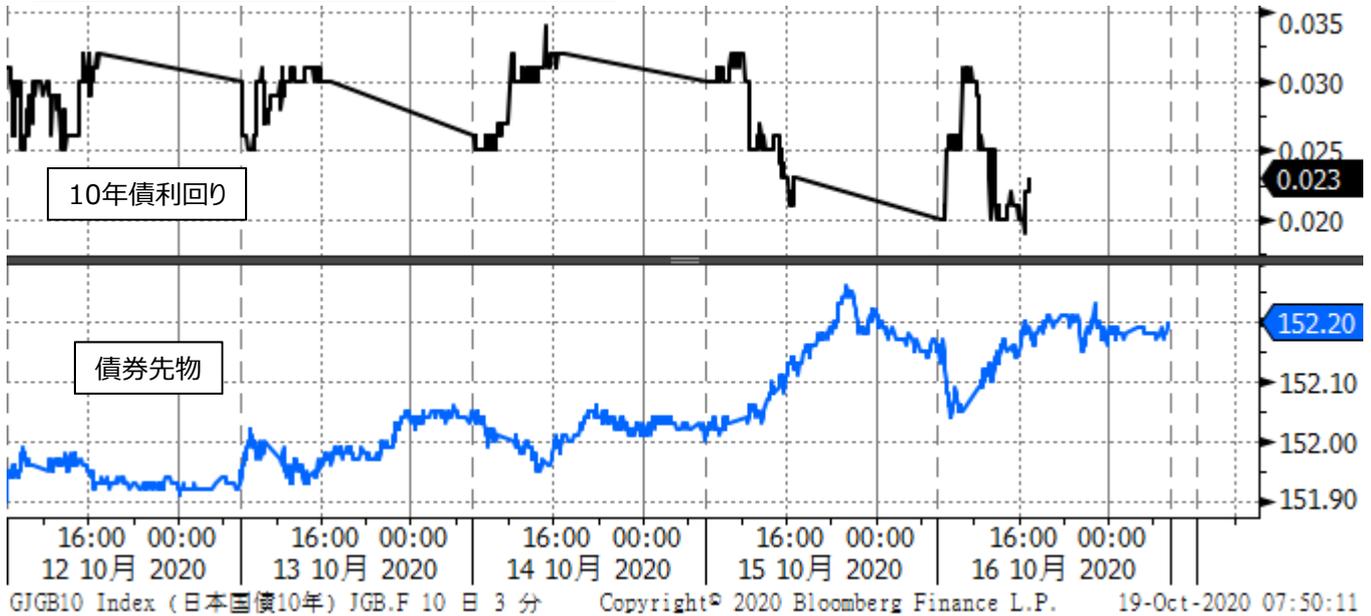
### 今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
福永純一	104.20 - 106.20	大統領選を控えてドル円は膠着状態、米追加経済対策の動向や欧米のコロナ感染再拡大懸念から上値が重い展開を予想。
山下航平	105.00 - 106.00	22日開催の米大統領選候補者討論会で、双方の政策内容に注目が集まるも、引き続き方向感が出ない展開を予想。

## 2. 円金利相場概況

新型コロナウイルスの感染第二波拡大が金利低下圧力に

### 10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



GJGB10 Index (日本国債10年) JGB.F 10 日 3分 Copyright© 2020 Bloomberg Finance L.P. 19-Oct-2020 07:50:11

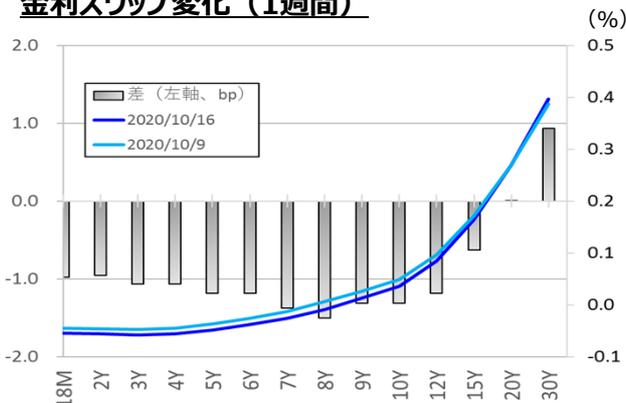
(出所) Bloomberg

### コメント

先週の10年国債金利は0.020-0.035%のレンジ推移。週初から週央にかけては、米国大統領選でバイデン候補の優位が継続していることや、超長期ゾーンを対象に実施された流動性供給入札が予想よりもやや弱い結果となったことでイールドカーブのステープニングが継続し、30年国債利回りは今年7月以来の水準まで上昇する展開となった。ただし、週の後半になると米国の追加財政支援策に進展が見られないことで超長期ゾーンの金利上昇は一服し、債券先物も堅調な推移となっている。今週も引き続き米国の大統領選や追加財政支援策の動向が注目されるが、新型コロナウイルスの感染第二波が欧米を中心に拡大していることで、イールドカーブ全般に金利低下圧力が強まりそうだ。火曜日の20年国債入札については、30年ゾーンと比較して割高感はあるもののクーポンの絶対水準を重視する投資家からのニーズは強く、順調な入札になるとみられる。経済指標では金曜日の欧米PMIに注目。

(チーフ・マーケット・ストラテジスト/諸我)

### 金利スワップ変化（1週間）



### 5年円金利スワップ推移（5年間）



### 今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
内田直樹	0.00% - 0.03%	新型コロナ感染再拡大による実体経済のダウンサイドリスクから、今週の10年債利回りは底堅く推移する見通し。
廣瀬友絵	0.01% - 0.04%	欧州の新型コロナ急拡大を受け海外金利の低下が進む中、円債市場は需給も底堅く狭いレンジでの動きとなるか。

### 3.米国株式トピックス

#### コロナショック後の半導体市場と今後の展望

##### SOX指数について

フィラデルフィア半導体指数は「SOX指数」とも呼ばれ Nasdaq PHLXが算出、公表する半導体の設計、製造、販売、流通を手がける企業の株式で構成される調整時価総額加重平均指数を指す。代表的な構成銘柄としては、Intel、NVIDIA、Broadcom、QUALCOMM、AMDなどが挙げられ、全30銘柄で構成されている。SOX指数は1993年12月1日を基準値100として算出されており、直近は2,399.755ポイント（10/16日時点）を記録している。米国株式の代表的な指数であるS&P500指数、ナスダック総合指数に比べても高パフォーマンスを記録しており、年々時価総額も増加している（図1、2参照）。また近年はIoTや5G関連などのハイテク企業の代表的な指数として目されており、世界経済の先行きを占う上でも非常に重要な指数とされている。

##### 半導体業界の現状

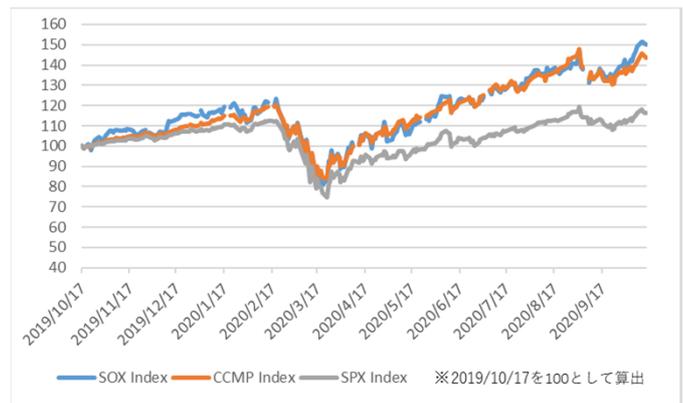
新型コロナウイルスは、収束の気配を見せていない。WHOの発表によると、全世界での感染者数は約3,967万人、死者数は約110万人超（10/18時点）に上る。特にヨーロッパでは感染者数が再び増加しており、フランスでは夜間の外出禁止令が出るなど、猛威を振るう状況が続いている。

そうした状況下で、SOX指数は大幅な上昇を記録している。コロナショックにより2020/3/18に1,286.841まで下落したSOX指数だが、同年10/12に2,433.481まで上昇。安値から約89%の上昇率を記録している。その上昇要因として挙げられているのが、巣籠もり需要やテレワークの普及である。しかし、SOX指数の構成銘柄では、明暗が分かれつつある。（図3を参照）売上高が世界一のIntelは7/23に発表した第2四半期決算において、大幅な増益を発表した。しかし、次世代CPUである7nm（ナノは10億分の1）の半導体技術の開発が遅れていると発表し、以降株価が低迷している（1年間の上昇率は5.05%）。一方、Intelの競合でCPU製造を行なっているAMDは、FPGA製造を中心とする、Xilinxの買収を発表。上述の次世代CPUで先行していることも好感され、SOX指数を牽引している。また、GPU製造のNVIDIAは半導体設計大手であるARMの買収を発表。AI技術との親和性が高いGPUに加え、半導体設計まで手掛けることとなり、半導体総合メーカーへの転換期待から株価が上昇している。

##### 今後の市場展望

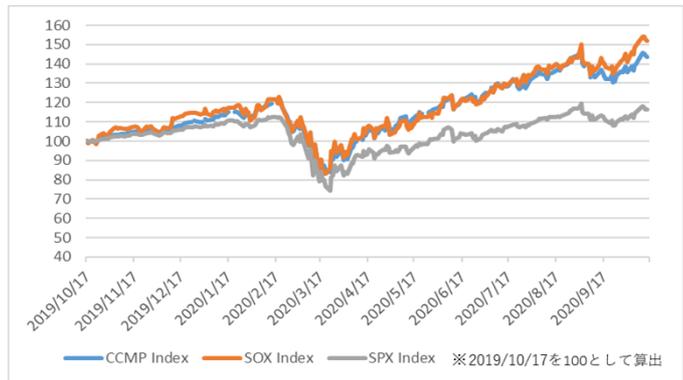
新型コロナウイルスは感染を再び拡大しており、収束の気配を見せていない。世界はwithコロナの時代に突入しており、テレワークなどの新たなライフスタイルは今後も定着すると考えられる事から、半導体企業は成長、株価の上昇が期待される。アメリカは約2週間後に大統領選挙を控えており、結果次第では、SOX指数が一時的に乱高下する場面も想定されるものの、テレワークを中心とした働き方や、ライフスタイルが早期にコロナ前に戻ることは考え難く、半導体企業への期待は不変であり、今後の動向には注視したいと考える。（市場営業部/梅村）

【図1】SOX指数と米国主要株式指数の推移（1年）



出典：Bloomberg

【図2】SOX指数と米国主要株式指数の時価総額推移（1年）



出典：Bloomberg

【図3】上昇、指数寄与度（1年、上下10銘柄）

上位				
名称	価格	上昇率(%)	寄与度	
エヌビディア	558.80	188.33%	22.18	
アドバンスト・マイクロ・デバイセズ(AMD)	83.13	169.81%	9.85	
モリッシュ・パートナー・システムズ	320.93	128.36%	2.65	
マーベル・テクノロジー・グループ	42.95	82.07%	4.28	
スカイワークス・ソリューションズ	153.38	81.90%	3.89	
台湾積体回路製造 (TSMC)	88.15	81.06%	6.85	
インテグリス	82.02	74.85%	1.57	
コルム	135.96	71.95%	2.16	
クアルコム	128.58	69.15%	10.94	
ラムリサーチ	375.49	62.87%	4.84	
下位				
名称	価格	上昇率(%)	寄与度	
シリコン・ラボラトリーズ	104.89	-4.21%	-0.06	
インファイ	121.03	-1.18%	-0.03	
インテル	53.85	5.05%	1.53	
セムテック	52.13	6.15%	0.07	
シーラス・ロジック	59.93	9.86%	0.08	
CMCマテリアルズ	158.25	11.56%	0.17	
ブルックス・オートメーション	50.92	11.89%	0.14	
アナログ・デバイセズ	123.98	14.46%	1.29	
マイクロン・テクノロジー	51.94	15.01%	1.14	
インファイ	122.45	16.60%	0.31	

出典：Bloomberg

## ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）  
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会